

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高千穂町立高千穂小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	2	2	0	13	19
児童数	62	47	59	58	55	58	0	339	

実践研究の概要

1. 主題・副題

確かな学力を身に付けた児童の育成 ～ 基礎・基本の確実な定着を図る指導の工夫を通して ～

2. 内容と方法

(1)実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生・国語(学校として, 該当教科に関する研究を進めているため) <li style="padding-left: 20px;">・ 算数(全教職員の協力体制によるTT指導を進めているため) ・ 2年生・国語(学校として, 該当教科に関する研究を進めているため) <li style="padding-left: 20px;">・ 算数(全教職員の協力体制によるTT指導を進めているため) ・ 3年生・国語(学校として, 該当教科に関する研究を進めているため) <li style="padding-left: 20px;">・ 算数(全教職員の協力体制によるTT指導を進めているため) ・ 4年生・国語(学校として, 該当教科に関する研究を進めているため) <li style="padding-left: 20px;">・ 算数〔TT指導及び習熟度別指導〕 <li style="padding-left: 40px;">(児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため) <li style="padding-left: 20px;">・ 社会, 図工と理科, 音楽の交換授業〔一部教科担任制〕 <li style="padding-left: 40px;">(教師の専門性を生かすため) ・ 5年生・国語, 算数〔少人数指導及び習熟度別指導〕 <li style="padding-left: 40px;">(児童の理解の状況に差が出やすい学年・教科であるため) <li style="padding-left: 20px;">・ 国語, 音楽と算数, 体育(一部単元領域を除く)の交換授業〔一部教科担任制〕 <li style="padding-left: 40px;">(教師の専門性を生かすため) ・ 6年生・国語, 算数〔少人数指導及び習熟度別指導〕 <li style="padding-left: 40px;">(児童の理解の状況に差が出やすい学年・教科であるため) <li style="padding-left: 20px;">・ 国語と算数の交換授業〔一部教科担任制〕 <li style="padding-left: 40px;">(教師の専門性を生かすため)
--

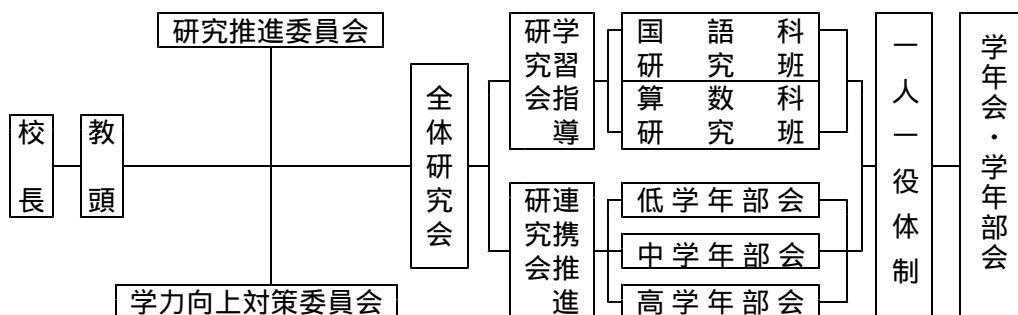
(2)年次計画

平成14年度	テーマ 基礎学力の定着を図るための手立てはどうあればよいか 研究の仮説 (1) 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法や指導体制を工夫改善すれば, 児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (2) 評価を生かした指導の在り方を工夫改善すれば, 児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (3) 学校と家庭・地域社会との連携を通して, 学習環境を整え, 学習習慣の定着を図れば, 児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 研究内容・方法 問題解決的な学習, 体験的な活動等 一部教科担任制による指導 少人数指導・TT指導 繰り返し指導 評価の在り方 家庭・地域社会との連携 特色ある年間指導計画の作成
--------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る指導の工夫はどうあればよいか</p> <p>研究の仮説 (1) 国語科・算数科において、基礎・基本の確実な定着を図るために、個に応じたきめ細かな指導のための指導方法や指導体制を工夫改善すれば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (2) 国語科・算数科において、評価を生かした指導の在り方を工夫改善すれば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (3) 学校と家庭・地域社会との連携を通して、学習環境を整え、学習習慣の定着を図れば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <p>研究内容・方法 指導方法・指導体制の工夫改善 評価を生かした指導 発展的な学習や補充的な学習の研究 家庭・地域社会との連携強化 年間指導計画の見直し</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 生きる力の礎となる学力を育成するための手立てはどうあればよいか</p> <p>研究の仮説 (1) 児童の主体的な学びを重視した指導方法や指導体制を工夫改善すれば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (2) 評価を生かした指導の在り方を工夫改善すれば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。 (3) 学校と家庭・地域社会との連携を通して、学習環境を整え、学習習慣の定着を図れば、児童に「確かな学力」が身に付くであろう。</p> <p>研究内容・方法 指導方法の工夫改善及び指導体制の充実 評価を生かした指導方法の充実 発展的な学習や補充的な学習の研究 家庭・地域社会との連携強化 その他</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度は、国語科・算数科を中心とした指導法の研究を推進するために、これまでの指導法研究班・評価研究班の内容を合併し、学習指導研究会とした。そして新たに国語科研究班・算数科研究班を編成した。また、連携研究班を独立させ、連携推進研究会とした。

メンバー

研究推進委員会...校長・教頭・教務主任・研究主任・研究班長
学力向上対策委員会...学校代表・PTA代表
学習指導研究会...国語科，算数科における指導法の具体的な実践研究
連携推進研究会...家庭・地域社会との連携推進の研究
一人一役体制...研究の理論・実践の充実

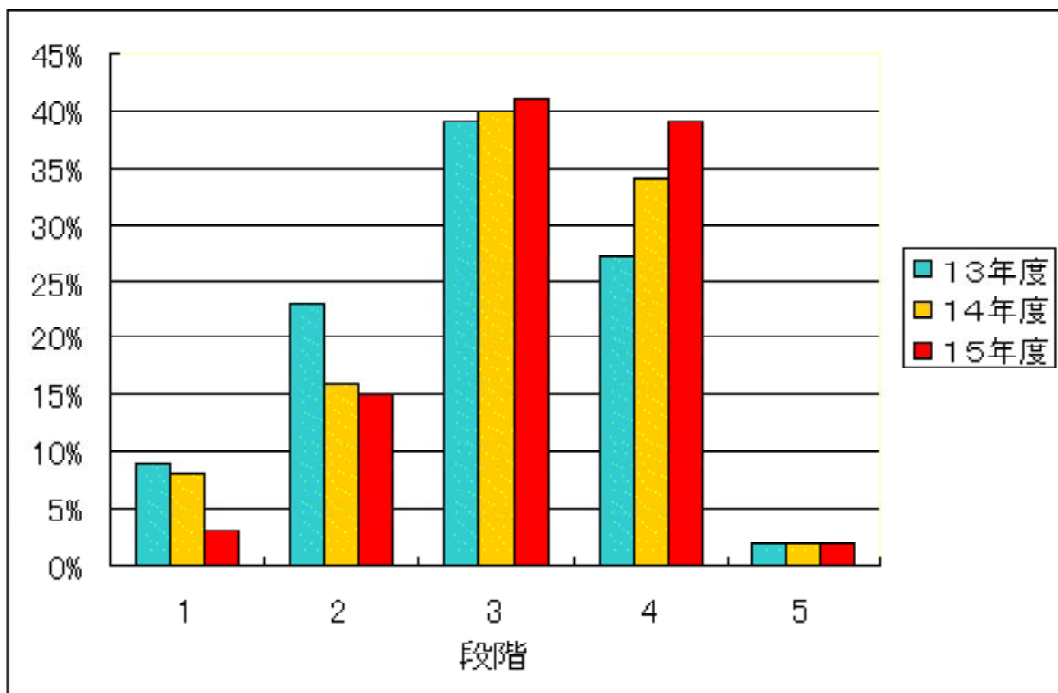
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

小学校基礎学力調査の結果(本校平均と県平均との比較)

第3学年 国語科の平均点が80.7点で県平均点より+10.8点
算数科の平均点が82.5点で県平均点より+ 5.2点
第5学年 国語科の平均点が71.8点で県平均点より+ 3.4点
社会科の平均点が73.1点で県平均と同じ
算数科の平均点が74.4点で県平均点より+ 1.5点
理科の平均点が73.5点で県平均点より+ 3.9点

教研式学力検査(NRT)の年度別推移



平成15年度の仮説に対する成果

- (1) 保護者の理解及び教職員の共通理解，協力体制のもと，少人数による習熟度別指導やTTによる指導，一部教科担任制（交換授業）が円滑に行われ，個に応じたきめ細かな指導が推進できた。
- (2) 児童一人ひとりの学習状況を把握する評価方法を工夫したことで，学習のねらいと評価の相関性が一層明確になり，評価を指導の改善に生かせるようになった。
- (3) 学校と家庭が，児童の生活や学習状況に関する情報を共有し，互いに連携したことで，生活習慣の見直しと改善に関する意識が高まり，家庭学習の習慣も定着しつつある。

2. 今後の課題

平成15年度の仮説に対する課題

- (1) 全教職員による協力体制や教科担任制のよさが生かせるような研修及び指導体制を確立し、学力と学び方の相関性を明らかにしながら、指導方法の一層の充実を図る必要がある。
- (2) 授業における評価の視点と評価の仕方をさらに明確にし、評価を生かした指導の在り方を究明するための実践を積み重ねる必要がある。
- (3) 家庭学習について児童・保護者の理解を一層促すとともに、確かな学力を身に付けさせるために、家庭・地域社会と連携して充実した学習環境づくりに努めなければならない。

学力等把握のための学校としての取組

本校独自の学力テストの実施(年1回・3学期)

- ・漢字の読み書きテスト
- ・計算力テスト

定期的な学力調査の実施

- ・教研式学力テスト(NRT・4月末)(CRT・2月中旬)
- ・小学校基礎学力調査(年1回・10月末)

生活・学習習慣に関する意識調査

- ・せいかつアンケート(年2回・7月、2月)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・研究会の開催

日時...平成15年12月5日

場所...高千穂町立高千穂小学校

対象...西臼杵郡内の小・中・高校校長・教頭・教諭、保護者、地域住民

方法...全教職員による授業公開、研究発表、分科会(保護者部会、教職員部会)

- ・研究成果普及のための研究紀要作成
- ・研究成果普及のためのHPの作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無